

# よりん彩



第57号

2018. 3



若者座談会「学生が考える男女共同参画社会」  
(関連ページ2、3ページ)

## 特集:若者座談会 「学生が考える男女共同参画社会」

### 目次

● シリーズ 時代を切り拓いた女性たち (日本初の女性外交官 <small>やまねとしこ</small> 山根敏子さん) .....	P2・P3
● “情報ライブラリー” おすすめ BOOK .....	P4
● きらり輝く <small>ふくもと</small> 福本かな子さん (カヌー選手) .....	P5
● <small>かわぐち</small> 川口 映子さん (産後ケア やわらかい風代表) .....	P5
● 平成 29 年度男女共同参画人材バンク登録者紹介 .....	P6
● よりん彩相談室より セクハラとは何か? .....	P7
● あなたの町の男女共同参画 (鳥取市) .....	P7
● 知る得コーナー .....	P8



鳥取県男女共同参画センターの愛称「よりん彩」とは「ちょっと寄っていきませんか」という意味の言葉で、気軽に利用していただきたい、老若男女いろいろな色(彩)を寄せ合って男女共同参画社会づくりの輪が広がってほしいという願いが込められています。

## 若者座談会

# 学生が考える男女共同参画社会



参加者(左から)  
 (司会) 佐藤淳子<sup>さとうじゆんこ</sup>さん(とっとり震災支援連絡協議会事務局長)  
 美坂峻弘<sup>みさかたかひろ</sup>さん(看護学科) 内丸若奈<sup>うちまるわか</sup>さん(幼児教育保育学科)  
 米澤千佳<sup>よねざわちか</sup>さん(看護学科) 山本秀飛<sup>やまもとひゅうと</sup>さん(社会システム土木系学科)

2016年に「女性活躍推進法」が施行され、職場における女性の能力発揮への期待が高まる中、今の日本には「少子高齢化」を背景として「待機児童問題」「長時間労働」そして「働き方改革」などたくさんの課題があります。今回の特集では、男女共同参画社会実現に向けて、明日を担っていく若者にお集まりいただき、今の若者が考える「男女共同参画社会」についてご自身の考えや課題に対するご意見を語っていただきました。

この座談会を通し、男女共同参画社会実現に向けて、どういことができるのか一緒に考えていきましょう。

佐藤さん：男女共同参画と言っても幅が広いので、視点を働き方にして話し合いを進めていこうと思います。皆さんは、学生さん。学校生活の中で男性と女性で違うなと思うことがあれば教えてください。

美坂さん：自分は看護大学なので、9割近くが女性です。違うと思う点は女性は集団で固まって行動していて、男性は常に一人ということはないが、さばさばと一人で何でもこなしているって感じかな。「力仕事は男性」と当然のように任されますが、男性の方が平均的には力が強いと思っているので、特に違和感はありません。

米澤さん：私のクラスは、34人中男性が3人と少なく、3人となると男性は固まってしまう。

山本さん：自分は工学部なんですが、120人中女性15人と、女性がとても少ないので、一概には言えないが米澤さんが言ったようにどうしても固まってしまう傾向もあります。男性も固まっているのでそんなに差はないと思います。

内丸さん：私のクラスは保育系なので、男性が少ないです。子どもと関わる上では、男性はけっこう人気者扱いをされていて貴重な存在です。

佐藤さん：4人の話を聞いていると、別に男性が女性というより、人数によって多いか少ないかで、固まるとかあまり普通の生活の中ではちがいを感じていないようですね。

佐藤さん：鳥取県はけっこう高い率で共働きが多いのですが、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方を皆さ

んはどう思いますか。

美坂さん：そういった考えは一昔の考え方であって、高度経済成長から女性の社会進出が増え、バブル崩壊、リーマンショックがあり男性の稼ぎが少なくなり、共働きでないと子どもを養っていけない社会になっていて「男は仕事、女は家庭」というような考え方は取り除いていかないといけないと思います。社会に合わせて考えを変えていくことが必要だと思います。

内丸さん：私もそういう考えが世間的にも固定化しているという感じがあるので、男女がお互い仕事して互いに家庭を支えていくという方がこれからは求められるのではないかと思います。

米澤さん：男性の収入が、少なかったら女性も外で働かなければいけないが、収入が多ければ専業主婦もできると思います。でも、専業主婦だと生活のルーティーンが変わらないので、変化がなく面白くないので、飽きてしまうと思います。だから働きに出たいという女性が増えているのだと思います。

山本さん：「男性が働いて女性が家にいる」というのは、「まわりがそうだから」というところがあるのではないかと思います。最近変わりつつあるというのはそういうことだと思います。共働きの社会になってきて、〇〇さんちも働いているので、自分たちも働かなければいけないなど、自分の意識ではなく、みんながそうだからという意識が働いているのではないかと思います。自分としては育児を試みたいし、料理ができればいいのでやっていきたいと思っています。



佐藤さん：男性の家事・育児について皆さんのうちではどうでしたか。



山本さん：両方働いていて家に帰ってくるのが父の方が早いし、料理好きなどところがあるので、基本的には父が料理をしてきているのを見てきています。自分もそうなりたいと思います。

米澤さん：夜ご飯はお母さんが作っていたけど、お父さんが料理好きなので、お弁当の卵焼きとか味噌汁とか朝ご飯はお父さんが作ってくれて、家事もできる範囲で父母二人で協力し合っています。お父さんが洗濯物を干してお母さんがたたんでと分担してやっています。

内丸さん：私の家は共働きですが、祖父母と同居しているので、ご飯はほとんどがおばあちゃん、洗濯はお母さん、お父さんは仕事ですね。

美坂さん：両親共働きで父は全くといっていいほど料理をしません。母がいつも料理をしますが、その代わり父が洗濯や掃除をしているのを見ます。母は、料理が好きなので父が料理をしないのを苦に思っていないみたいです。そんな両親の姿を見ているので、自分は結婚したら、料理は女性に作ってほしいと思っています。

佐藤さん：2016年に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）という法律ができましたがどう思いますか？

内丸さん：育児休業を取った後に復帰しやすい環境ができてなかったり、整っていなかったりしているからこの法ができたのかなと思います。でも私はどちらかというと家において家事とかしたいほうです。

美坂さん：現在女性が活躍していないわけではないので、余計にプレッシャーを与えたり、文句を言っている人がいるのではないかと思います。



山本さん：初めて聞きました。地方では女性が働いているのが当たり前なので、再び職に就けないのを改善するためだったらとてもいい支援になると思います。

米澤さん：高校生の時の先生や今の学校の担任も育児休業を取られているので、働く壁というものを感じたことがありません。

佐藤さん：男性の育児休業などにかかわるパタニティーハラスメントをどう思いますか？

美坂さん：まわりの男性が育児休業を取っていなかったら、ちょっと言いにくいですね。

山本さん：育児休業を取ると戻る席がなくなってしまうのはイタイです。あまりにもリスクが大きいから育児休業を取らない人が多いんだと思います。自分はそれにおびえ、

まわりの影響で取りにくくなるのはちょっと恐怖です。それで職を失ったら、家庭にとってマイナスなので、自分の意志を曲げてしまうという選択肢を取るかも知れません。本当は育児休業をきちんと取って戻ってこれる企業につきたいし、そういう企業であってほしい、そういう社会になったらいいと思います。

美坂さん：山本さんが言ったように同期と比べてしまうかも知れない。育児休業を取って帰った時、まわりからどう思われるのかそのまま受け入れてもらえるのか心配になってしまいます。

内丸さん：保育士はまだ、女性の仕事感が強く、男性保育士が女兒の着替え、排泄に関わるのがどうなのかこの前問題になっていました。女性の仕事という固定概念をはずして、男性が働きやすい、逆に男性の仕事と言われているものに女性が働きやすい環境に世の中がなっていったら誰もがもっと働きやすくなるのではないのでしょうか。

米澤さん：子育てをするのに、相手がいってくれたら支えになると思うので、他の人の理解を含めて、社会の状況や実態を知ること大切だと思います。男性に育児休業を取っていいよという上司が増えたらいいと思います。



佐藤さん：育児休業1つをとっても個で戦うことは難しいです。個で抗うのはリスクも大きいし、会社全体に持って行くためには個ではなく集団を作ることが大事で、意識を高く持つ人が集まってくる職場を作っていかなければいけないと思います。米澤さんが言った他の人の理解ということはそのことなのかなと思いました。

佐藤さん：最後に、なんで働くことは必要なのでしょう？

山本さん：何を目的とするかですが、お金だけの側面を見たら、設計より別にもっと良い職業があると思うので、お金を目的とすると続かないし働くことに目的ややりがいを見いだせなくなり、しんどくなったときに簡単に逃げたしまうかも知れません。

美坂さん：第1に生きるため。お金だけならいくらでもいい仕事はあると思います。人間的に成長する意味で自分の就きたい仕事を選んでやることに意味があると思います。

佐藤さん：働くということは生きている証だと思います。自分以外の何かと関わり、生活や社会を変えていたり、人に影響やメリットを与えます。ぜひ皆さん、自分がこれだと思う職業に就いてください。1回仕事に就いたとしても、人間はやり直しができます。そこで壁とか、色々なものに当たったとしても、人はエネルギーを持っています。絶対にあきらめないでいてほしいです。

皆さん今日はお疲れ様でした。

### 座談会を終えて...

参加して下さった学生さんのご家庭は自然な形で家事分担がされており、固定的性別役割分担意識の刷り込みが少ないと感じました。働くことについても自分なりの展望を持ち、男女が働きやすい社会とは何かをきちんと考えて日々生活されていることが伺えました。若い世代の意識より、ジェンダーを刷り込まれて教育されてきた大人世代の意識改革が必要だと思いました。

(よりん彩)



国連会議場にて  
西田信子さん所蔵

## シリーズ 時代を切り拓いた鳥取の女性たち③

### ■ 日本初の女性外交官

やまねとしこ  
**山根 敏子**

(1921~1956)

山根敏子は、大正10(1921)年11月14日、鳥取市出身の北海道帝国大学助教授の山根甚信と茂世夫妻の次女として北海道で生まれました。小学校4年生の時に父親が台北帝国大学教授となり、一家で台湾に渡りました。

台北州立第一高等女学校卒業後、東京の津田英学塾(現津田塾大学)に入学し、得意の英語に磨きをかけました。昭和15年、マニラで開かれた日比学生会議への参加体験は、外国への生きた知識の開眼となり、国際的視野を広げる契機となったようです。昭和16年、太平洋戦争の勃発で繰り上げ卒業となり、翌年には台北帝大文政学部に入学者、英文学を専攻しますが、卒業論文では英国一の名門イートン校、ハロー校の学校教育を論じました。この時点ですでに教育の大切さや国際情勢への関心が高かったことが伺われます。

戦局が苛烈化した昭和19年12月には、帝大を繰り上げ卒業となり軍司令部情報班で働き始めますが、これが英文学から離れて、政治、外交、経済につながる英語生活への大きな転機となりました。

終戦後、国立台湾大学図書館分館主任となり、英語力と勤勉さを生かして図書館と海外との連絡調整業務にあたる傍ら、留用された日本人大学教員の子どものための教育に尽力しました。そして台湾独立紛争の体験などもあり、世界平和を強く願うようになっていきます。

昭和23年一家で台湾から引き揚げると鳥取県教育委員会に就職し、敏子の鳥取での生活が始まりました。米軍との交渉が常に必要だった占領下において、激務を一人で黙々と行う敏子の姿はとても印象的だったと当時の関係者も話しています。

昭和24年秋、日本で初めて女性にも応募資格が与えられる外交官試験の公募が行われると敏子は直ぐに応募し、採用

者12名に対して応募者千数百人というとても狭き門ながら、ただ一人の女性として見事合格をはたしました。昭和26年11月から10ヶ月間の外務省勤務の後、外務官補として駐米大使館付を命ぜられ、昭和27年ニューヨークの国連日本政府代表部勤務となりました。国連創立10周年記念の特別総会がサンフランシスコで開かれたときも、当時の澤田廉三初代国連大使(岩美町出身)にただ一人随行しました。当時、人員の不足する日本政府代表部の中で、敏子は外交官補としてだけでなく、休日も返上してタイプスト役までこなすなど日本の国連加盟実現のために粉骨砕身働きました。そんな敏子が調査作成した資料によって国際条約が刷新されたこともありました。

昭和31(1956)年8月24日、帰国のために搭乗した飛行機がアラスカ上空で墜落し、敏子は34歳という若さで亡くなりました。敏子が望んだ国際連合への日本加盟が決まったのは、敏子の死から3ヶ月後のことでした。

昭和35年、敏子の思いを将来に繋げ、世界平和の確立に貢献する人材を育成することを目的に「山根奨学基金」(2012年より「一般社団法人山根奨学基金」に移行)が、大使の北原秀雄氏、国連日本政府常駐であった澤田廉三顧問、外務省関係者が発起人となって設立されました。この奨学金は事故の保証金だけでなく日米各界からの多くの寄付を元に発足しましたが、発起人の中には米国の大富豪ロックフェラー三世もいました。現在では、この基金を受け国際舞台で活躍する女性が次々に誕生し、敏子の志を今につないでいます。

参考文献:鳥取県『ととりの女性史 戦後からの歩み』(2006)  
鳥取市『鳥取市人物誌 きらめく120人』(2010)  
鳥取県『鳥取NOW 45号』(1999)  
『去りぬるを』(山根甚信編 1957)

## “情報ライブラリー” おすすめBOOK

### 若い世代に読んでほしい!

### みんなで考えよう! わたしたちの男女共同参画社会

若い世代が、固定的性別役割分担意識や結婚・出産・仕事と家庭のバランス等について、男女共同参画の視点でどう考えていくのか…。「若い世代に読んでほしい!」本を紹介します。

#### 「全身〇活」時代

大内 裕和、竹信 三恵子 / 著  
青土社 2014年

ブラック化する社会の中で、今話題となっているキーワード「就活」「婚活」「保活」。この三重苦は若者の生活をどのように苦しめているのか。若者がおかれている現状を変えるには何ができるのかを考えさせられる一冊です。



#### 女子の働き方

永田 潤子 / 著  
文響社 2017年

ビジネスは、「男のルール」で動いている。この本はどんなに男性が多くても「すべての職場」で通用するルールが満載。働く女性たちの悩みがQ&A方式で書かれていて読みやすく、男性ビジネスマンにもぜひおすすめしたい本です。



# きらり輝く

県内等で活躍している  
個人や団体を紹介します。

## カヌーは 自己実現の場



ふくもと こ  
福本かな子さん

倉吉市在住で皆生養護学校に勤務され、現在国体カヌー・ワイルドウォーター成年女子カヤックシングルスプリント3連覇中の福本かな子さんにお話をうかがいました。

### ◎カヌーを始めたきっかけは何ですか。

倉吉東高校入学時、父から倉吉産業高校(現倉吉総合産業高校)のカヌー一部顧問であった本坊先生(故人)にカヌーを習ってはどうかとすすめられ、倉吉産業高校カヌー一部と一緒に東郷湖で練習を始めました。

### ◎東郷湖まで練習に通ったのですか。

毎日、自転車で通いました。中学時代は陸上部に所属し、短距離から駅伝までエントリーしていたので、体力はあるほうでした。

### ◎現在も倉吉にお住まいですが、練習場所は東郷湖ですか。

勤務地が米子のため、シーズン中の平日は、勤務後2~3回は中海で艇に乗るようにしています。また、土・日は、できるだけ国体開催地のカヌー競技場に遠征します。オフシーズン中(冬場)は日が短いこともあり、平日は米子のジムに通ったり、倉吉に帰って近所を走ったりするなど陸上トレーニングをし、週末は艇に乗るようにしています。

◎現在国体ワイルドウォーター成年女子で3連覇中、20年以上の競技歴の中で何度も国体で優勝されたことがあり、世界選手権にも出場されたことがあります。もうカヌーの世界で頂点を極められたと思いますが、お仕事も忙しい中で、それでも自分を追い込んでいく目標は何でしょうか。

目の前の目標としては、ライバルに阻まれ続け、3年連続2位に終わっている国体のカヤックシングル1,500メートルでも優勝し、もう一つの種目(スプリント)と合わせて2冠を達成することです。

### ◎長い距離でも短い距離でも日本一を目指すということですね。将来の目標はどうでしょうか。

可能な限り現役を続け、おばさんでもあれだけ漕げるのだから、と一緒に練習する若い選手たちの目標になればいいと思います。

### ◎カヌーが好きなんですね。

カヌーが好きというか、カヌーの世界(大会や仲間などを含めて)は居心地がよくて、自分を表現できる、私にとって自己実現の場です。

◎今どきは自分のやりたいことや居場所が見つからないという人が多い中で、うらやましい話ですね。そういう福本さんの姿を見て、東郷湖や中海でカヌーに親しむ人が増えればいいですね。

## 地域に だんらんの場 を提供



かわぐち えいこ  
川口 映子さん

下関市出身で、2016年に鳥取市に「産後ケア やわらかい風」を開設、同所で同年12月から「来未(くるみ)食堂」、2017年7月から「未完(みかん)食堂」を運営する川口映子さんにお話をうかがいました。

### ◎川口さんは、元々看護婦、助産師さんとして、病院に勤務されていたのですか。

心臓に疾患がある娘を病院で看護師として働きながら育て、40歳の時助産師免許を取得し、その後は鳥取市内の産婦人科病院で働いていました。今から2年半前に「やわらかい風」を開設し、妊娠中から産後までの女性を中心に幅広く支援しています。

### ◎来未食堂(地域食堂:地域の人々に安価で栄養のある食事と暖かな団らんを提供する活動)を始めたきっかけは何ですか。

託児付きで食事を提供し、小さなお子さんを持つお母さん、特にシングルマザーに、少しゆっくりしてもらい、心にゆとりを持ってもらいたいと思って始めました。

### ◎どれぐらいの人が来られますか。

多い時には、6畳二間の会場に50人ぐらい来られ、待ってもらう人が出るほどです。食事作りを支援してくださる

主婦歴30年以上のお母さんや栄養士さんのおかげで500円でおいしい家庭の味を提供しています。

### ◎なぜそんなに人が集まるのでしょうか。

狭い中で他人とテーブルを囲んで食事をすると、少し肩の力が抜けて、普段は他人と話をすることがなくても、ここだとでき、自然に子育て等の悩みも聞いてもらえるところでしょうか。お母さんだけでなく、地域のお年寄りの方等も来られます。少しでも心がほっこりして帰ってもらえれば良いと思っています。

### ◎未完食堂(子ども食堂:安価に子どもたちやその親に食事を提供する活動)もスタートされましたね。

未完食堂では、みんなで一緒に食事をした後、元教員の方等が宿題を見てくれます。毎回、数人の子が参加します。学校に行くのが苦手な子が、ここで、学校や家族以外の人との人間関係を育んでくれたらよいと思っています。

◎川口さんは「やわらかい風」で様々な母子・父子支援等、また、二つの食堂も運営されており、更にとっとり社会派シネマクラブの代表として薬物依存者の自立を支援する民間団体の啓発活動等もされていますが、お忙しくないですか。

自分が思い立って始めたことに周囲の方が賛同してくださり、支援の輪が広がっていくので助けられています。

# 「男女共同参画人材バンク」を

## ご紹介 します

「講演会の講師は誰がいいんだろう?どこに頼めばいいんだろう?」、「審議会の委員はどう探せばいいんだろう?」と思われたことはありませんか?よりん彩の「男女共同参画人材バンク」には現在、男女共同参画、男性にとっての男女共同参画、女性の活躍・就業・起業、人権一般、セクハラ・パワハラ、ワーク・ライフ・バランスなど21のテーマ毎に、現在活躍をされている方が登録をされています。よりん彩では、登録者の中から講師や審議会委員の候補を紹介を行っていますので相談ください。

29年度に登録された方々を紹介します。



いなだ なおひさ  
稲田 尚久  
(岡山県津山市)

### 登録分野

- 男女共同参画一般
- 人権一般
- セクハラ、パワハラ
- 福祉、介護
- 男性にとっての男女共同参画
- 人間関係づくり、コミュニケーション
- DV、虐待
- 子育て、教育、家族
- 女性の活躍、就業、起業
- ワーク・ライフ・バランス
- 健康、保健、医療
- 暮らし、環境

24年間教育現場の最前線で中学生と保護者へ関わってきた経験や自分自身がイライラを家族へぶつけてきた父親としての失敗談を活かし、怒りのコントロール「アンガーマネジメント」や「相手に伝わる上手な叱り方」をお伝えしています。小学生からご高齢の方まで対応でき、笑いあいの楽しく学べる内容です。感情コントロールで幸せな人生にしませんか?



もがみ かおり  
最上 香織  
(八頭町)

### 登録分野

- 人権一般
- 福祉、介護

フリーアナウンサーとして活躍。  
平成23年2月、いつもと変わる事のない父が、突然脳梗塞を発症し、父の在宅介護を体験。その1年後に、両親の看護と介護を同時に体験。  
講演では、両親の在宅介護の体験から、突然、介護に直面した時のとまどい、実際に大変だった事、地方の介護の現状、体験を通して気づき、感じた事などをお話します。



えばら ともみ  
江原 朋美  
(倉吉市)

### 登録分野

- 男女共同参画一般
- 子育て、教育、家族
- 女性の活躍、就業、起業
- ワーク・ライフ・バランス
- 暮らし、環境

整理収納アドバイザー一級・二級認定講師。鳥取県を拠点に、講演、セミナー、コラム掲載、テレビ出演、個人宅への整理収納サービスを精力的に行っています。生活の基盤であるお家のお片付け、快適で心地良い空間作りのコツや、終活・断捨離のポイント、モノとの付き合い方など、学生から子育て中の保護者、シニアまで幅広い年代の方に整理収納を通して多くの人に自分と向き合うきっかけを提供しています。



はしもと ますこ  
橋本 万住子  
(八頭町)

### 登録分野

- ワークライフバランス
  - 健康、保健、医療
- ※リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康・権利)

私は不妊症看護認定看護師として不妊に悩む当事者、家族への必要な情報提供および治療を選択し自己決定できるよう支援しています。  
また、思春期教育(性教育)や大学生・社会人への妊活セミナーにも力を入れています。  
助産師でもありますので、妊娠・出産に関することを初め、女性の一生に関わる健康教育に携わっています。



とくもと よしのり  
徳本 義則  
(琴浦町)

### 登録分野

- 男女共同参画一般
- ボランティア、NPO活動
- 福祉、情報

昨年、厚生労働省の介護福祉講座を指導させていただきました。  
私は高齢者福祉、障がい者福祉施設を8施設立ち上げ、その施設の管理者をして参りました。福祉経験は40年近く有り、ほとんどの資格を持っており、ボランティアとして視覚障がい者、聾啞者の方の支援を30年近くさせていただきました。  
福祉は正に経験に基づいた「活きた」「わかりやすい」知識のみが求められます。  
講座を開いていただける機会をお待ちしています。

## セクハラとは何か？

～気づかないうちに加害者・被害者にならないために～

近年セクハラ防止に向けた企業の取り組みが進められていますが、平成28年度に全国の労働局雇用環境・均等部へ寄せられた相談では、セクハラに関する相談が最も多く全体の35.8%を占めています。当相談室にも、職場をはじめ、地域での活動の中での様々な人間関係における相手の意に反した性的言動(セクハラ)の悩みが寄せられています。セクハラは誰もが安心して生き活きとあらゆる場で活躍する機会を奪い、被害者の心身に多大な悪影響を与えます。なぜ被害者が「離職」をしたり、活動の場から離れなければいけないのでしょうか。セクハラは組織全体にも大きなダメージを与えます。“そんなつもりはなかった、親しみを込めただけ”“これくらい当たり前、気にしすぎでは？”と気づかぬままに相手を傷つけていないのでしょうか？あるいはセクハラを見すごしていませんか？

セクハラは一人ひとりにある性的自由を侵害する性暴力です。同性間でも、また男性

が被害に遭うこともあります。決してひとごとと思わず、私たち一人ひとりに関わる問題として一方的な思いこみではないか、互いの感覚・認識の違いがあって当たり前と考えて相手のことを尊重する気持ちを持ったコミュニケーションが大切です。セクハラとは何か？誰もが被害者にも加害者にもならないために、正しい知識を学び、考えることが必要です。“これってセクハラ？”そんな思いを抱くとき、ぜひ相談室をご利用ください。

チェックしてみよう!

- 庶務や秘書業務、受付は女性が担当するのがよい。
- コミュニケーションの一環で、時々肩に手を置いたり頭をなでたりする。
- コミュニケーションにはユーモアが大事。多少性的な話題でも場を盛り上げるのに必要だ。
- 男なんだから女の子が好きなのは当たり前だ。
- 「髪の毛切ったの?かわいいね」「いいスタイルしているよね」「スカート似合うね」などと褒める。

\*東京人権啓発企業連絡会啓発委員会作成「働きやすい職場のために～セクシュアルハラスメント“気づき”チェックリストより抜粋

## あなたのまちの男女共同参画

～市町村の取り組み～

鳥取市

県内各市町村が男女共同参画の実現に向けてどのような取り組みをしているかをご紹介します。

第11回は鳥取市総務部人権政策監男女共同参画課 稲田すなおさんにお話をうかがいました。



### ■ 取り組み

鳥取市男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」は、男女共同参画の拠点となる施設として、日々、講座の実施、図書・情報の収集や提供、男女共同参画登録団体の活動支援などに取り組んでいます。近年では、ホームページや機関紙をはじめ、フェイスブックも活用して情報を提供していますが、その中で、「輝く男性の家事・子育て体験記」と題して、市内在住の男性の体験記も発信しています。これは、育児休業制度や早出遅出勤務、子の看護休暇など職場の制度を活用しながら家事や子育てに取り組む男性の様子や、また、制度を活用しないまでも日々、子どもと関わる時間を通しての気づきや喜び、苦労話などがそれぞれ自分の言葉で綴られたものです。

この掲載を始めたことによって、読んでくださった男性から「私も制度を活用してみました」などの報告や、体験記を記した男性の両親から、「性別による役割意識の強かった自身の意識変革につながった。同時に、息子の家族への思いを知ることができ、うれしかった」などの反応もありました。ささやかな取り組みではありますが、性別による固定的役割分担意識の払しょくを図る一歩になったり、女性も男性もすべての人がそれぞれの希望する働き方や生活を実現できるきっかけづくりになることを期待しています。

皆さまにも御一読いただけると幸いです。

右記QRコードからフェイスブックにつながるので、是非「いいね!」をお願いします!!

HP: <http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1326245716728/index.html>

FB: <https://www.facebook.com/tottorishidanjyo>



# よりん彩記念日フォーラム2018

6月開催です。  
ご来場お待ちしております。



- 日時 6月23日(土) 10:00～
- 会場 倉吉未来中心 アトリウム・よりん彩 他
- 内容

## 午前のイベント

### アトリウムステージ

- ・鳥取大学 Jazz & Fusion研究会による演奏
- ・齋藤友紀さんによるフルーツ演奏
- ・ダンスチームによるダンス
- ・男女共同参画クイズ
- ・ひまわり倶楽部によるコーラス など

### アトリウム

- ・じげのグルメコーナー
- ・バザー
- ・お手玉遊びコーナー
- ・パネル展示コーナー
- ・ひまわり倶楽部コーナー
- ・鳥取大学おもしろ実験室 など

### よりん彩

- ・まちの保健室
- ・男女共同参画かるた
- ・カフェよりん彩

## 午後のイベント

### セミナールーム3

- ・朗読ボランティア花みずきによる朗読劇
- ・講演会



## 平成30年度 よりん彩事業案内

みなさんの企画を応援します。

### よりん彩活動支援事業補助金

男女共同参画社会の実現に向け、鳥取県内で活動する団体や企業・若者などのグループが自ら企画し、運営する講演会や学習会、調査研究等事業に対して補助金を交付します。

#### 公開講座／上限12万円

団体等の構成員以外にも広く一般に公開し、50人以上の参加者が見込める講座

#### 研修支援講座／上限2万5千円

自治会、企業、PTA等の団体が開催する研修会で参加者が20人程度の参加者が見込める講座

#### 若者企画講座／上限5万円

県内の学生や若者が企画し、広く県民に呼びかけ20人以上の参加者が見込める講座

#### 調査研究等事業／上限15万円

男女共同参画に関する調査研究の成果を県民に還元できるものであること。

#### 環境支援事業※／経費の1/2を支援します。上限2万5千円

県内で行われる男女共同参画に資する各種講演会やセミナー等において実施される託児サービス

※公開講座、研修支援講座、若者企画講座との併用可

### 共同参画時代の 自分磨きセミナー

男女共同参画についての理解を広げるための事業を企画する団体を募集します。(3企画)

委託料の上限は

- 1企画(40万円) (よりん彩指定テーマ)
- 2企画(20万円)

### 男女共同参画 人材育成協働事業

男女共同参画を進める人材育成講座等を企画し、よりん彩と協働して実施する団体を募集します。(4企画)

委託料の上限は

- 1企画(40万円) (よりん彩指定テーマ)
- 3企画(20万円)

## 鳥取県男女共同参画センター よりん彩

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5 倉吉未来中心1階

電話(代表) 0858-23-3901 ファクシミリ 0858-23-3989

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/> 電子メール [yorinsai@pref.tottori.lg.jp](mailto:yorinsai@pref.tottori.lg.jp)

「よりん彩」は県民皆さんの  
施設です。気軽に  
お立ち寄りください。

※広報誌「よりん彩」へのご意見、ご感想などをお寄せください。次号は平成30年8月発行予定です。  
よりん彩ネット・電子メールの配信をご希望の方はよりん彩メールアドレスへご連絡ください。